



災害時の薬剤師～熊本地震における経験から～

日本薬剤師連盟 副会長 本田あきこ

私の全国訪問活動は、6月末から東海ブロックに入り、三重県、静岡県、愛知県、岐阜県を訪問させていただいています。広島県訪問時に提案していただいた「オレンジのたすき」が島根県から引き継がれています。facebook ページ「本田あきこの部屋」の写真をご覧ください。

さて、先週末に西日本を襲った豪雨による被害は、平成に入って最悪の状況となっております。被害に遭われた皆様には、心よりお見舞い申し上げます。また、6月18日には大阪北部地震が発生し、7月7日には千葉県で大きな地震が発生しました。我が国においては、常に災害対策を意識しておくことが大事だと思います。

平成28年4月に発生した熊本地震の際には、私は熊本県薬剤師会の職員として、県薬の災害対策本部において活動をしました。その時、私がスマートフォンにダウンロードしていたのが「薬剤師のための災害対策マニュアル」（日本薬剤師会）であり、活動をするのに大変役立ちました。

災害時での薬剤師の活動は、救護所での調剤、避難所へのOTCの供給、巡回医療班への医薬品の払い出しと帯同、支援医薬品の管理、避難所の環境衛生への助言等さまざまですが、何といたっても重要なのは、他の医療従事者を含む関係者との信頼関係の構築だと思いました。人の命は連携なくして救えないことも痛感しました。災害の発生時に適切に行動できるよう、避難所となった場合を想定して、災害対策・避難所運営マニュアルの確認や見直しを常に行い、関係者との協力体制について協議しておくことが必要だと思いました。

被災地の迅速な復旧をお祈りしながら、訪問活動を続けて参ります。

- 1 本田あきこのホームページを開設しました。
右のQRコードから閲覧してください →



- 2 Facebook ページ「本田あきこの部屋」を公開しました。
右のQRコードから閲覧してください →



- 3 本田あきこメールマガジンを開始しました。
右のQRコードから登録をお願いいたします →

